

財団法人 大阪科学振興協会

平成23年度 事業計画

平成23年度は、引き続き4年間、大阪市立科学館の指定管理者として指名を受け、その管理運営を担う2年目の年となる。

同時に、今年度は、協会として新公益法人へのスムーズな移行を目指す年となるが、一方で、大阪市から新しい外郭団体の改革計画が示されるなど、協会を取り巻く環境は変化しつつある。

この様な状況の中、外部からも高い評価をいただいている日常の各種事業を引き続き堅実に実施することの重要性を再認識するとともに、これに加えて、利用者ニーズの的確な把握等を通じて、今後の協会の進むべき方向性をしっかり見据えたうえで、より効率的・効果的な事業実施に向けた創意工夫と、戦略的かつ柔軟性に富んだ協会運営に留意しながら、協会の目的である科学並びに科学技術の普及振興を図っていくこととする。

このような考えのもとで、平成23年度の事業に取り組むが、特に重点的に取り組む主な項目は以下の通りである。

○ プラネタリウムの充実

番組制作過程における事前評価や他館との交流等により、学芸員のスキルアップを図り、より印象的で教育効果の高い作品を制作する。芸術的要素の高い「ゴッホが描いた星空」の投影、幼児とその保護者を対象とした「キッズタイム」の試行、「HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-」の夏休み期間等の再上映など、メニューの多様化を図る。

○ 展示場の充実

2011年の世界化学年を記念し、在阪化学関連企業と連携した展示会や、エキストラ実験ショーの実施日拡大により、来館者へのサービスを向上させる。

○ 事業連携の推進

「光のルネサンス」や「文化芸術連携事業」をはじめとする大阪市や（財）大阪市博物館協会等との連携事業に積極的に取り組むことにより、事業内容の多様化と共同による広報の利点を活かした新たな来館者層の開拓に努める。

○ アウトリーチ活動の推進

館外で科学教室等を担当することができるスタッフを計画的に養成し、学校や地域、企業等と連携して教室活動や科学イベント等を実施し、より多くの市民に科学・技術に接する機会を提供する。

1. 大阪市立科学館管理運営業務受託事業(収入:244,208千円、 支出:244,208千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。
第4次展示改装事業のための調査を行う。

(2) 展示場の公開・管理

展示場を公開する。

(1階：電気とエネルギー、2階：おやこで科学、3階：身近に化学、4階：宇宙とその発見)

メンテナンス体制を強化し敏速な展示品の修繕に努めるとともに、展示品ならびに展示場が正常に機能するよう保守管理を行う。

現展示品の評価と資料収集による展示の改良を行う。

学芸員によるサイエンスショーや、ボランティアによる展示案内およびエキストラ実験ショーを実施するとともに、サイエンスショー研究会や研修会などで、学芸員やボランティアスタッフのスキルアップを行う

2011年の世界化学年を記念し、在阪化学関連企業との連携による展示会を開催する。

(3) 教育・普及事業

協会が独自に実施する教育・普及活動に併せ、「青少年のための科学の祭典」、「ジオカーニバル」などを実施する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

科学館ならびに科学と科学技術の普及啓発のため、多彩な手法による情報発信及び広報・宣伝に努める。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

(6) その他

学校等を対象に積極的にプロモーション活動を推進するとともに、多彩な行事を開催するなど利用者増に努める。

2. 自主事業(収入:149,530千円、支出:152,353千円)

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:135,278千円、 支出:103,291千円)

一般投影、幼児向け投影、学習投影等のプログラムを提供する。

一般投影においては、学芸員制作番組の他に芸術性の高い「ゴッホが描いた星空」を投影し、新しい顧客層の開拓をする。

引続き「スペシャルナイト」等の特別投影を実施する。

「キッズタイム」と題して、新たに幼児とその保護者を対象としたプログラムの投影を試行実施する。

夏休み期間などに「HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-」を再上映する。

(2) 全天周映像普及事業(収入:2,000千円、 支出:0千円)

オリジナル制作の「HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-」の映像ソフトを貸与する。

(3) 普及啓発事業(収入:12,252千円、 支出:44,268千円)

①独自事業

夏休み科学教室や特別天体観望会（土星観望会）などを実施する。

アウトリーチ活動として、モバイルプラネタリウム、出張サイエンス教室（おでかけサイエンス）などの充実を図り、企業等からの依頼による科学関連のイベントのプロデュースなどにも取り組む。またそれらのスタッフの計画的な養成に取り組む。

②連携事業

普及啓発事業については、他の機関との連携を積極的に進める。

日本物理教育学会等と連携した「青少年のための科学の祭典」を開催するほか、お天気フェア等の科学イベントを行う。

「世界化学年」に因み、他の施設や団体と連携して、化学をアピールするための事業を行う。

大阪府・市と共同し、教員研修事業や市内学校への出張サイエンスショー等を実施する。

大阪市と連携し、「光のルネサンス」「文化芸術連携事業」等で独自の科学イベントを実施する。

(財)大阪市博物館協会と連携して、「キャンパスメンバーズ制度」を創設する。

(4) 中之島科学研究所事業(収入: 0千円、 支出:4,794千円)

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。

展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。

理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。

その他の研究会等を積極的に開催し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:99,140千円、 支出:89,564千円)

<事業内容>

(1) 駐車場(収入:68,400千円、 支出:65,154千円)

来館者のための駐車場（科学館西側バス駐車場、科学館北側一般駐車場）を経営する。

(2) 売店(収入:30,740千円、 支出:24,410千円)

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。